

# EVENT REPORT

## 平成 29 年 12 月 24 日 [日]



# 青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気みなさまに発信する「サポーターライターズ」の方によるレポートをお届けします。

# 第7回 青葉の森 落語まつり

出演  
落語 林家 たい平  
落語 立川 談笑  
落語 林家 木久蔵  
落語 三遊亭 わん丈

三味線漫談 林家 あずみ  
出囃子演奏 三味線/長澤 あや  
太鼓/三遊亭 わん丈  
桃月庵 ひしもち



年末に一年を笑い飛ばし、大変楽しい時間を過ごしました。まずは出囃子の演奏から。出囃子とは、落語家が出てくる時の出囃子です。三味線は長澤あやさん、太鼓は三遊亭わん丈さんと桃月庵ひしもちさんでした。落語家により、出囃子にそれぞれ特徴があるということも初めて知りました。落語はまず前座の三遊亭わん丈の「プロポーズ」という、20才年上の88才の女性と結婚を急ぐ、新作落語から始まりました。軽妙なお話でまず落語の世界に引き込まれました。

次は林家木久蔵の「権助魚」です。権助という気の利かない男が女将さんに旦那の浮気を調べるように命じられるが旦那との板ばさみになるお話で、木久蔵さんに楽しませてもらいました。  
三番目は立川談笑の「金明竹」でした。早口のお客さんに困る与太郎と女将さんのお話で、談笑さんの話術と表情は最高でした。  
仲入りの後は、林家あずみの三味線漫談です。こういう機会がないと見ることもないので新鮮で良かったです。

最後は林家たい平の「禁酒番屋」でした。禁酒令のでている番屋でなんとか呑もうとする男達の騙しあいのお話です。たい平さんらしいお話で、最後まで笑っぱなしでした。サポーターライターズ山下千雪



林家 木久蔵



立川 談笑



林家 たい平

## 《ク》 リスマスイヴは落語

とで、第7回青葉の森落語まつりに参加してきました。

林家たい平さん、立川談笑さん、林家木久蔵さんという豪華なお三方をはじめ、三遊亭わん丈さん、三味線漫談の林家あずみさん（この女性、林家たい平師匠のお弟子さん！「オレンジ色のすきな人に悪い人はいない」ってお母様の口癖が、たい平師匠弟子入りの決め手だったというんだから何とも実直な娘さんです）。まずは会場を楽しく景気づけるのが出囃子演奏。三味線に長澤あやさん、太鼓に、落語と太鼓の二人二役の三遊亭わん丈さんと桃月庵ひしもちさんががちり脇を固めていました。

会場は、さすが！の入りで、出囃子の軽快な音が鳴り出すと、こちらの気持ちも今か今かと笑う準備が整います。

今現在、噺家さんは、九百名ほどいらつしやるとのことですが、噺家さん入に曲決まった出囃子があるとのこと。プロレスラーの登場曲のごくくリングに…じゃなかった高座に上がる際の出囃子を演奏される方の頭には、全ての噺家九百名分の…いや、千人以上の出囃子

がインプットされているようで、その中には、亡くなられた噺家さんの出囃子もつて言うんだから驚きます。

かの天才噺家の名人、古今亭志ん朝師匠の出囃子もあるそうです。名前を襲名するようになり、亡くなられた噺家さんの出囃子を使わせてもらうこともあるんですね。

さて、噺家の皆さんは、日々の何気ない出来事も笑いにしてしまうというか、思考回路が笑いにつながっているというのか、「席話す前に、必ず日常に起こった自身の身の回りの面白い出来事や、時事ネタ、または会場がある土地に関連する枕話をする。これで会場のお客さんの反応を確かめ、今日はこの演目をやろう！」と決めているのかな？など勝手な想像を頭の中で膨らませていたのですが、なんだかそれはウォーミングアップにジャブを放ち、我々の心や頭を笑いへのロックアウトに誘うボクシングのように思いました。

私は、NHKの「落語 THE MOVIE」という番組をよくみるのですが、流石に番組に登場するような有名な女優・俳優陣ではないものの、まさに私の脳内では、無



林家 あずみ

名ながらも名演技する登場人物の映像が流れていました。

木久蔵さんの「権助魚」に出てくる権助は、奥さんの味方に付いたかとおもったら、あっさり旦那に寝返る現金でちゃっかりものの丁稚小僧。

談笑さんの「金明竹」に出てくる与太郎は、面白いことには目がないというか悪知恵が働くというか人の裏をかいては面白がっている悪ガキ。さらに談笑さんならではの店にやってくる客が早口でまくしたてる強いなまりの長台詞を一言一句違わず何回も言っていたところも一つの見せ場でした。

たい平さんの「禁酒番屋」では、お酒を取り締まる番屋の男と知恵を絞ってなんとかお酒を持ち込もうとする番頭さ

らんの攻防が続いて、最後に機転の利く小僧さんが登場して、そう来るかそう来るとなると…だよね〜と、これがいわゆるオチといわれる笑いが起こります。

とにかく、出てくる登場人物が、どこか憎めなくて、大真面目で、人間臭い。

もう、会場はクスクス、ゲラゲラ、ワッハッハと笑いのオンパレード！しまいには、涙が出るほどおかしくて、おかしくて。

人間、涙は悲しいときばかりに出るとは限らないものだなあ〜と実感したリスマスイヴでした。

サポーターライターズ辻康子  
写真/サポーター(カメラマン) 田邊 定行  
鈴木 恵治